

令和7年度事業報告書

令和7年1月1日 から 令和7年12月31日まで

公益財団法人 ゴールドリボン・ネットワーク

1. はじめに

当法人は、広く国民一般を対象として、小児がんに関する正確かつ信頼性の高い情報提供、社会的理解の促進を目的とした普及・啓発活動、小児がんの治癒率向上及び小児がん経験者の生活の質向上に資する研究支援、並びに小児がん患児、経験者及びその家族に対する各種支援事業を実施することにより、不特定かつ多数の者の利益の増進に寄与し、小児がんの子どもたちが安心して治療、生活及び社会参加を行うことができる社会の実現に資することを目的としている。

令和 7 年度は、旧特定非営利活動法人ゴールドリボン・ネットワークから、これまで継続して実施してきたすべての事業を承継し、公益財団法人として本格的に事業運営を開始した最初の年度である。本年度は、法人形態の移行という大きな制度的変化を伴う中で、公益法人として求められる説明責任及び透明性の確保を重視し、各種規程の整備、内部統制の構築、理事会及び評議員会を中心とした意思決定体制の確立に取り組んだ。

また、事務局運営においては、日常的な事業執行体制の安定化を図るとともに、旧法人時代から継続してきた支援活動が滞ることのないよう、関係団体、医療機関、支援者との連携を維持・強化しながら事業を推進した。これにより、法人形態の移行期においても、公益目的事業を継続的かつ安定的に実施する体制を整えることができた。

本報告書は、令和 7 年度事業計画書に基づき実施した各公益目的事業について、その実施状況及び成果を整理し、公益財団法人としての事業遂行状況を明らかにするとともに、事業の公益性及び社会的意義を明確にすることを目的として作成したものである。なお、これらの公益目的事業は、個人及び法人から寄せられた寄付金等を主な原資として実施しており、その収支の状況については、別添の決算書において明らかにしている。

2. 事業実施期間

令和 7 年 1 月 1 日から令和 7 年 12 月 31 日まで

3. 事業の内容

以下の各事業は、令和 7 年度事業計画書に基づき実施したものであり、いずれも不特定かつ多数の者の利益の増進を目的とする公益目的事業として実施した。

(1) 小児がん支援のためのゴールドリボン普及事業

【Gold Ribbon Month】

9月の世界小児がん啓発月間に合わせ、「Gold Ribbon Month 2025 ～わたしのたいせつなもの～」として、当法人独自の啓発事業を実施した。子どもたちが制作した作品の「作品展」、当年1月より公益財団法人として新たなスタートを切ったゴールドリボン・ネットワークを紹介する「動画」、小児がん経験者による手記「小児がんを語る」を作成しホームページ上に公開し、小児がんを取り巻く現状と課題を身近な社会課題として捉えてもらう機会を創出した。また、特定非営利活動法人日本小児がん研究グループ（JCCG）が実施する「Global Gold September Campaign」に賛同団体として参加し、日本各地で実施されたライトアップや啓発イベントに関する情報発信を行った。

【ゴールドリボンウォーキング 2025 へ実行委員会としての参画】

4月19日（土）、小児がんの現状を一人でも多くの方々に理解いただき、小児がんと闘う子どもたちやそのご家族、医療従事者の方々への支援の輪を更に広げたいという想いで2007年から始まり17回目を迎えた「ゴールドリボンウォーキング 2025」（東京・お台場 参加者数：2,971名 協力団体：29団体）に、実行委員会メンバーとしての参画、および特別協賛を行った。当日は、小児がん支援のシンボルマークであるゴールドリボンにかけて、黄色い服やグッズを身に着けた参加者がウォーキングでその存在を伝えるとともに、小児がんに関するパネル展示等での参加者への普及活動を行った。

【自動販売機等による支援拡大】

協力企業が行う（ロゴ・マーク入りなど）提携商品の販売や寄付型自動販売機の設置等を通じてゴールドリボンの認知を高める活動を行った。

ゴールドリボン支援自動販売機は、2009年4月に第1号が長野に設置され、その後、全国各地の設置台数を増やし487台となった（2025年12月末時点）。

【東京マラソン・東京レガシーハーフマラソン】

3月2日（日）に開催された東京マラソン 2025（国内外約38,000人が参加）に寄付先団体として参加。世界中から多数の寄付先指定の申し込みがあり最終的に205名のチャリティランナーを選定した。

同様に、10月19日（日）東京レガシーハーフマラソン（国内外約15,000人が参加）においては、当法人を寄付先とするランナーは51名となった。

いずれの大会においても継続的にゴールドリボンの普及と小児がん支援の輪の拡大に取り組んだ。

(2) 小児がんの治癒率向上、小児がん経験者の生活の質向上のための研究・開発者支援事業

【ゴールドリボン研究助成】

日本国内の大学・研究機関に属する個人もしくはグループによる研究を対象に、『小児がんの治癒率向上もしくは小児がん経験者の生活の質の向上』のための研究の促進を目的として、ゴールドリボン研究助成を実施した。

当法人の研究助成は、小児がんの治癒率向上の研究とは別に、通常の研究助成ではなかなかサポートできない小児がん経験者のQOL向上の研究の枠を設けていることが大きな特徴である。また、研究については、専門家でなくても小児がん経験者本人や家族の体験に基づく研究も対象としている。

募集は当法人ホームページ等を通じて広く周知し、応募のあった研究課題について、外部有識者を含む選考委員会において、実現可能性、効果の大きさ等の観点から厳正な審査を行った。2025年は応募件数59件（治癒率向上48件、QOL向上11件）と、前年と比較して1.5倍の応募があり、内35件（治癒率向上27件、QOL向上8件）の研究を採択し、総額35,580,000円の助成を決定した。選考過程及び結果については適切に記録・管理し、透明性の確保に努めた。

【研究団体への助成】

「一般社団法人日本小児血液・がん学会」、「特定非営利活動法人日本小児がん研究グループ（JCCG）」の事業内容が当法人の公益目的に合致することを確認のうえ、各研究団体が目的に沿って行う事業に係る費用の一部として、それぞれに2,000,000円を助成した。

【研究留学支援】

小児がんを治る病気にするための研究助成として、「東京小児がん研究グループ（TCCSG）」スカラシップを通じて、小児がん専門医の研究のための留学に3,000,000円を支援した。

第 16 回（2025 年）は、「東京小児がん研究グループ（TCCSG）」で選考され推薦のあった、磯部知弥医師（東京大学）の Children's Hospital of Philadelphia（留学時期：2025 年 7 月～2028 年 6 月（予定））への研究留学支援を助成した。研究テーマは、① 機械学習・深層学習を用いたトランスクリプトーム・プロテオーム解析パイプラインの開発、② 正常骨髄の網羅的空間マルチオミクスアトラスの構築、③ 時空間マルチオミクス解析による小児白血病の治療抵抗性骨髄微小環境の解明である。

なお、研究留学生は、東京小児がん研究グループ（TCCSG）スカラーシップ委員会での選考を経て、毎年 1 名が選出されるものである。当法人では、TCCSG 及び留学生の承諾のもと、活動報告の一つとして、留学生の人数とその氏名、所属病院または研究機関、留学先、留学期間、留学先での研究テーマを当法人のホームページで公表した。留学期間後には、研究成果の報告も公表予定である。

(3) 小児がんに関する情報収集及び情報提供事業

年間活動報告書（4 月）及びゴールドリボン通信（9 月）を作成し、支援者、寄付者、関係機関等は無償で配布した。また、当法人の活動状況や小児がんに関する情報について、ホームページ及び YouTube、X、Instagram、Facebook など SNS を活用し、継続的かつ積極的な情報発信を行った。

特定非営利活動法人ゴールドリボン・ネットワーク 16 年間の締めくくりとなる 2024 年の活動報告書では、1 月 1 日付で公益財団法人へ移行し、認定 NPO 法人より全ての事業を継承し、より高い透明性をもって組織を運営のうえ、活動を継続していく活動方針を示すとともに、ゴールドリボン通信では、公益財団法人としての上半期の活動を報告した。

さらに、米国国立がん研究所（NCI）が提供する世界最大かつ最新の包括的ながん情報データベース「Physician Data Query（PDQ®）」を日本語で紹介する『がん情報サイト』の内、小児がん情報の日本語版作成を支援するため、公益財団法人神戸医療産業都市推進機構医療イノベーション推進センター（TRI）に対し実費 1,309,998 円の助成を行い、最新の小児がん情報の国内への提供を支援した。

(4) 小児がんに関する国内外の専門家、団体、研究機関とのネットワーク構築事業

小児がん経験者及びその家族が孤立することなく、必要な情報や支援につながることを目的として、当法人が構築したサバイバーネットワーク（2025 年末時点登録者数：2,100 名）を通じた様々な情報や支援企業が主催する子どもたちを対象としたイベント情報などの提供を行った。

また、小児がんの治療と研究を行う日本のほぼすべての大学病院、小児病院や総合病院等 195 施設（2025 年 6 月 2 日時点）が参加する特定非営利活動法人日本小児が

ん研究グループ（JCCG）支援協議会にメンバーとして参加し、当法人の活動状況の報告、JCCG からの報告や提案を含めた他団体の活動情報収集等、小児がんの課題の共有及び連携強化を図った。

(5) 小児がんに関するシンポジウム・講演会

他の団体や企業が主催するシンポジウム、講演会、勉強会等において、当法人の役員や職員が小児がんの現状及び当法人の活動について、年通算 22 回にわたり無償講演・対談等を実施した。参加者が制限されない講演会については当法人のホームページや SNS を利用して周知するとともに、小児がんについて関心を持つ団体や企業からの依頼に応じて開催した。

(6) 小児がんの知識、理解の普及・啓発

ゴールドリボンウオーキングやコンサート等のイベントを通じて小児がん経験者の体験談の発表や小児がんに関する情報の掲示、動画の配信等を行った。ゴールドリボンウオーキング 2025 では、小児がん経験者 2 名が自身の経験と想いを伝えるスピーチを行うことで参加者に小児がんを知っていただく機会とした。

2021 年 2 月 15 日（国際小児がんデー）に、小児がん経験者たちによる音楽活動グループ「ゴールドリボンフレンズ」が各人の想いを出し合って作詞した、小児がん患児・経験者のための応援歌「We Are One」を、小児がんの知識、理解の普及・啓発を目的としてゴールドリボンウオーキング 2025 等、小児がん啓発イベントで演奏した。

(7) 小児がんの子どもたち（患児、経験者、及びその家族を含む）の生活の質向上のための支援

【はばたけ！ゴールドリボン奨学金の給付】

小児がん患児及び小児がん経験者が、治療や療養による影響を受けながらも学業を継続し、将来的な社会的自立を目指すことができるよう、「はばたけ！ゴールドリボン奨学金」を給付した。本奨学金は、経済的理由により進学や修学の継続が困難となることを防ぎ、教育機会の確保を図ることを目的とした公益目的事業である。2025 年度（第 11 期）は、応募者数過去最多の 54 件の内、選考により過去最多の 24 名（ひとり親が 41%、33%が晩期合併症を抱える）を新規奨学生として迎え、継続生を含め合計 81 名へ 30,960,000 円の奨学金給付を支給した。2025 年 12 月実施の選考委員会では、34 名の採用を決定。2026 年春より奨学生（第 12 期）として迎え入れる予定である。

【GRN 小児がん交通費等補助金の給付】

遠方での治療が必要となる小児がん患者とその家族を支援することを目的として、経済的理由で適切な治療が受けられないことのないよう、所定の要件（自宅と病院が100km以上離れていること）を満たす者を対象に、小児がん患者とその家族が治療のため遠隔地の病院へ通う場合の交通費・宿泊費等の負担軽減を図り、169件、26,707,252円のGRN小児がん交通費等補助金を給付した。

なお、遠距離者や飛行機で移動せざるを得ない場合の経費負担を考慮し、支給対象を細分化して実態と合わせるとともに、ガソリン代の高騰を受け、変動するガソリン価格に応じた助成額となるよう支給基準の一部改正を行った。

さらに、その対象を従来の診断・治療のための入院から、主治医の判断による特別な抗腫瘍治療を受けるための「外来通院」にまで拡大した。これは最近では分子標的薬の処方等の臨床試験や患者申出療養制度のような、入院を伴わない外来での治療が重要な選択肢となってきていることを背景としている。いずれも理事会の承認プロセスを経て1月および7月に基準改定を行った。

【GRN ひとり親世帯支援一時金の給付】

ひとり親世帯を対象として、入院時の経済的負担を軽減するための一時金給付を行った。入院治療が必要となった小児がん患者を抱えるひとり親世帯は、親が仕事を辞めたり休んだりすることで収入が減少する一方、入院時に諸費用がかかるため、治療継続を経済的理由により断念することのないよう支援するものであり、患者及び家族の生活の安定に寄与する公益目的事業である。給付件数は、75件、7,500,000円となった。

【キャンプ助成】

小児がん患者会（経験者の会・親の会・家族会・病院の会などを含む）は、当事者・ご家族・ご兄弟にとって同じ経験をした仲間と出会える貴重な場所であり心の拠り所となっている。そのような仲間との交流及び参加していただく医師等医療関係者への相談を目的とし、小児がん患者・経験者やその家族で構成する団体が実施するキャンプ、イベントへの助成として、公募のうえ決定し、5団体へ1,446,500円の助成を行った。

【ニット帽・その他】

治療に伴う外見の変化等に配慮したニット帽（通年使用可能なオーガニックコットン製）の物資無料提供を 300 件行い、患児の心理的負担の軽減を図った。

株式会社メディカルノートと提携し、小児がんについて、その経験者を含めて本人や家族がオンラインで医療相談（24 時間）ができるサービス「Medical Note 医療相談」を無償提供し、患児及び家族が専門的な医療情報にアクセスできる環境を継続した。

【小児がん患児・経験者の就労移行支援事業】

小児がん経験者の就労移行支援の取り組みとして、アフラック・ハートフル・サービス株式会社（アフラック生命保険株式会社の特例子会社）との間で小児がん経験者の職場見学や体験就労の受け入れを実施するとともに、対象拡大に関する協議を開始した。小児がん経験者 2 名がアフラック・ハートフル・サービス社で職場見学に、1 名が 1 週間程度の体験実習（実際の職場で、実際の業務の体験）に参加した。また、新潟県で小児がん経験者の自立支援に取り組む認定 NPO 法人ハートリンクワーキングプロジェクトとの間で情報交換を行った。

4. 公益目的事業比率に関する考え方

本年度に実施した各事業は、いずれも定款に定める公益目的事業に該当し、不特定かつ多数の者の利益の増進を目的として実施したものである。普及啓発、研究助成、情報提供及び各種支援事業はいずれも社会全体への波及効果が高く、公益性の観点から重要な意義を有している。これらの事業を中心に実施したことにより、公益目的事業比率は適正に確保されている。

5. 総括

これら一連の事業の実施にあたっては、常に公益性、透明性及び説明責任を意識し、関係法令及び内閣府の指導方針を踏まえた適正な事業運営に努めた。

令和 7 年度は、公益財団法人としての基盤整備及び事業承継を進めながら、事業計画に基づく各公益目的事業を着実に実施した年度であった。今後も、公益性及び透明性の確保を最優先とし、社会環境や医療を取り巻く状況の変化にも適切に対応しながら、公益財団法人としての責務を着実に果たしていく。